■編集・発行　NPO法人 大谷石研究会
〒321-0345　栃木県宇都宮市大谷町350番地
（有限会社　高橋佑知商店内）
TEL028-652-0005　FAX028-652-2337
http://www.ooyaishi.org/
mail:info@ooyaishi.org
編集責任者　塩田　潔

大谷石研究会では、会員の募集をしています!

入会の資格は、年齢、性別、職業、地域を問いません。
「大谷石が好きだ!」という事だけです。
現在、20代から80代の約110名の会員がいます。
年会費は個人会員3,000円、特別会員10,000円です。
入会希望者は、左記の事務局へ問い合わせて下さい。

大谷に佇む昭和28年建築の建物をリノベーション 第20回宇都宮市まちなみ景観賞も!

NPO法人大谷石研究会 理事　渡辺 慶子

大谷の市営駐車場から姿川に沿って大谷寺に向かうと、青色の瓦屋根の小さな大谷石の建物が見えてきます。昭和28年、大谷石の採掘を手がける「大道寺石材(株)」の事務所兼番頭さんの住まいとして建てられた、大谷石積み石の建物。設計は旧大谷公会堂と同じく更田時蔵です。すでに70年経っているとは思えない、大谷石の石肌が青空に映えます。

この建物は近年ではレストラン「トモッティーナ」が大道寺に借りて営業していましたが、令和元年10月、大風19号の姿川氾濫で被害が大きかったためやむ無く閉店。その土地と建物を3年前に購入し、リノベーションしたのが渡辺富男氏です。宇都宮の街中にあった広告代理店の事務所を大谷に移転し、社名も「(株)とちぎテラス」に改名。大谷の町らしく観光客に大谷石の風景を見てもらいたいと、原石を36本そのまま配置し、さらに看板も大谷石で造って設置。ウッドデッキや大谷石の炉、ピザ釜などもおき、観光客に大谷の風景の一部として、建物とともに景観を楽しんで頂こうというこだわりです。

中でも一番のこだわりは、大谷石とのコントラストが抜群の、昔ながらの小さな青色の瓦屋根。リノベーション後、半年も経たない頃に起きた天上の雨漏りにより、全面修復に。新しい瓦を勧められましたが、当時のままの姿を残したいと、一旦瓦を全て下ろして一枚一枚綺麗にしてもらい、足りない分は今の瓦を小さいサイズにオーダーして、目立たない部分に入れてもらいました。景観が少しずつ変わる中、「原風景と今らしさを調和した、大谷ならではの風景を創り出せたら素敵だと思っています」とのこと。令和3年に、「第20回宇都宮市まちなみ景観賞」を受賞しました。

昭和28年に大道寺石材(株)の事務所兼住居として建てられました

大谷石の原石を設置し、大谷石のある風景を演出

窓に付けられた大谷石のひさしが特徴

下ろした瓦を一枚一枚丁寧に確認

会員紹介

「大谷石との新たな出会い」

大谷石研究会 会員　田村 紀夫
（株式会社 田村忠設計事務所）

大谷石研究会に入会して約一年が過ぎました。その間に研修見学会や石蔵集落調査などに参加して、大谷石の魅力を改めて再認識する貴重な経験をさせていただきました。思い起こせば、建築と大谷石の関係を初めて意識したのは、学生時代にフランク・ロイド・ライト研究の第一人者である谷川正己先生の講義を受けた時だと記憶しています。今から40年以上前のことになりますが、これが「建築素材としての大谷石」の可能性を認識した最初の出会いと言えます。設計の仕事を始めた20代の頃にライトや遠藤新をはじめ様々な有名建築を尋ね歩き、その建物の細部にまで及ぶこだわりを見逃すまいとスケッチしたことを思い出します。それから月日は流れ、数年前に偶然テレビで見た現代美術家の杉本博司氏が創設した小田原文化財団の「江之浦測候所」に衝撃を受けることになります。そこから「大谷石との新たな出会い」が始まり、大谷石研究会への入会のきっかけとなりました。大谷石は慣れ親しんだものでしたが、知れば知るほど奥が深く、感動や驚きが尽きることのない魅力的な存在です。今後は積極的に活動に参加して大谷石の魅力を体験し、その本質を探求していきたいと思います。現在は会社も非常勤役員となり時間に余裕ができた分、古き良きもの達と接する機会が増えて、古民家や民藝など多方面に興味が広がりつつあります。益子参考館の古民家実測ワークショップに参加したり、木工教室に通ったりと少し欲張りすぎかと心配しております。当面は大谷石にまつわる様々な事を中心に「学び直し」たいと考えておりますので、宜しくお願い致します。